

## 「環境保全」と「地域との協調」をめざして 「OKI山と緑の協力隊」による森林ボランティア

2001年11月に結成された、沖電気グループ社員とその家族からなる「OKI山と緑の協力隊」は、グループにゆかりの各地で森林保護のためのボランティア活動を地道に積み重ねています。2005年度は沖電気が群馬森林管理署と森林整備等の活動に関する協定書に調印するなど、活動の範囲がさらに拡大。環境保全活動を通じて、地域の皆様との交流を深めています。



「沖電気グループふれあいの森」での初めての森林ボランティア活動



(右上) 森林整備の合間に、そば打ちなどのイベントを通じて地域の皆様と交流(小諸市)  
(右中) 倒れにくい木を全員で間伐(中伊豆町)  
(右下) 「沖電気グループが育てる森」での森林整備

### 「沖電気グループふれあいの森」を整備

「OKI山と緑の協力隊」が初めて活動を行ったのは2001年11月。特定非営利活動法人地球緑化センターの協力を得て、沖電気グループ社員とその家族25名が静岡県中伊豆町で慣れない間伐作業に汗を流しました。以来、年に数回のペースで参加者を募り、群馬県上野村・松井田町、東京都八王子市など、グループにゆかりのある各地で、除伐、間伐などの森林ボランティア活動を継続しています。

2005年6月28日には、沖電気が群馬森林管理署と群馬県高崎市の「ふれあいの森※」における森林整備等の活動に関する協定書に調印し、同フィールドで活動するボランティア企業第1号となりました。「OKI山と緑の協力隊」はこの協定に基づいて、2010年までの5年間、高崎市観音山地区の「沖電気グループふれあいの森」5.4haを大切に育てていきます。

※「ふれあいの森」:

1999年度より林野庁が全国で開始した事業。ボランティア団体が希望する森林づくりは、国有林野をフィールドとして提供する。ボランティア団体は、個々のアイデアを活かした自主的な森林づくりができる。

### 環境保全と地域交流の場を広げていく

2005年度は、長野県小諸市でも新たに森林ボランティア活動を開始しました。これは、沖電気および「OKI愛の100円募金」(P30参照)が2005年1月に小諸市と締結した「森林(もり)の里親協定」に基づく活動で、毎年50万円(5年間)を寄付するとともに、春と秋の年2回、同市の野馬取地区にある「沖電気グループが育てる森」などの森林でボランティア活動を実施していきます。

こうしたボランティア活動は、地域の森林保護に貢献するだけでなく、その活動を通して社員やその家族が地球環境や地域社会との関係を改めて考える貴重な体験の場にもなっています。沖電気グループは、今後も社員一人ひとりの手で取り組む環境保全と地域交流活動を継続的に実施していきます。



シンポジウム「浅間山麓から日本の里山を変える」(小諸市主催、沖電気後援)にパネラーとして参加